



2018年3月15日発行 会報第919号

今週のプログラム

(2018年3月15日第919回例会)

卓話：「盲腸線2」

担当：相原 正雄 会員

次週のプログラム

(2018年3月22日第920回例会)

卓話：「伏見稻荷神社」

担当：木下 吉宏 会員

第918回例会 (2018年3月1日) の記録

<会長の時間>

水本 徹 会長

お釈迦さまによって説かれた仏教のうち、シルクロードを渡り中国・朝鮮半島を経て、日本にもたらされた北伝仏教は、大乘仏教と称され、大きく花開き、その国の生活そのままが仏教的な教義に結び付き、その国の民族性となり定着し展開しました。

例えば、「慈悲」は「南無（帰依する）」に変化し、「おかげさま」として、和製の言葉としても、実践としても、定着しました。

「おかげさま」という言葉は日常茶飯事 耳にし、誰もが何気なく使っていますが、日本に仏教がもたらされて以降、この言葉ほど仏教思想が定着し、完全に消化され純日本的に完成したものはないのではないのでしょうか。

「おかげさま」は自分ひとりでは生きられない。必ず自分以外の他によって生かされていることに感謝し、更に他の存在そのものが、自分の価値観を向上し、人間性を高めていることに気づき、「おかげ」であることに、敬称の「さま」もつけて尊んでいるのです。

仮に介護をうける老人がいる。その介護に携わる人は、この老人が自分の前にいる「おかげ」で、介護という尊い行為ができるわけで、「介護させていただく」という謙虚な心が自然と芽生える。この「させていただく」行為の積み重ねが、菩薩道を歩くことにつながり、仏への完成が約束されるのです。

だから、「おかげさま」こそ、仏教の主張「慈悲」なのです。

<お客様> 米山奨学生 鄭 珉覽 (ジョン ミンチャン) 君

約2年間、千里メイプルロータリークラブに大変お世話になりました。4月からは母国韓国に帰って、社会人として旅立ちます。今後は母国韓国と日本との橋渡しに努力していく所存です。有難うございました。

<出席報告> 岸上和典出席担当

会員数 (内出席免除会員1名)	20名
本日の出席者数 (内免除会員1名)	16名
本日の出席率	84.21 %
前々回2月15日の修正出席率	84.21 %

<ロータリーソング> 全会員

♪奉仕の理想♪

<ピアノ演奏> 近藤美里さん

1. いい日旅立ち
2. You Go Your Way

<幹事報告>

山本 友亮幹事

1. 平成29年度 大和川・石川クリーン作戦の案内が参りましたので、回覧いたします。
2. 地区社会奉仕委員長会議にて配布されました違法薬物撲滅啓発DVDをご覧になれる方は事務局までご連絡下さい。
3. 春の **RYLA** セミナーの案内が参りましたので回覧いたします。
参加青少年のご推薦及びロータリアンのご参加をよろしくお願い致します。
4. 本日例会終了後、理事会及び20周年委員会を「おしどりの間」にて開催致しますので、理事・役員、担当会員はご出席ください。
5. 来週3月8日は定款に基づく休会ですのでお間違えのないよう、よろしくお願い致します。
6. SS会参加確認至急でお願い致します。

<お誕生日お祝い>

3月 6日	松田会員
3月25日	渡邊会員
3月29日	中西名誉会員

ハシカには2度かからないといいますが、インフルエンザには何度もかかるのは何故でしょうか？又、インフルエンザはワクチンで予防できるのはなぜでしょうか？免疫学はそんな素朴な疑問に答えを見つけようとするところから誕生しました。疫とは“疫病”つまり伝染病のことであり、その苦痛から“免れる”仕組みを解き明かし、これを人々の健康に役立てようとしたのが免疫学の始まりです。ある伝染病から回復した人は、その病気に再びかかっても命を落とすまでにはならないという事は、遠く紀元前から知られていました。

14世紀にはヨーロッパの人口の3分の1を奪ったというペストの大流行の時にも患者の世話をしたり死体の始末をした修道僧のなかには、ペストにかかっても症状が軽くすんで、その後二度とペストにかからない人がいて、「神の恩寵を授かった人たち」とあがめられたそうです。

免疫は英語で“immunity”といいますがその語源は経済用語 *im-munitas* (免税、免役) です。やがていやな事一般、特に伝染病から免れるという意味を持つようになりました。

しかし、西欧に於いて、疫病が目には見えない微生物によっておこると考えるようになったのはずっと後の17世紀になってからの事です。それまでは「人間は体液のバランスが崩れることで病気になる」と考えられていました。いわゆる瀉血療法も19世紀頃までの重要な治療法であったそうです。

17世紀になると目には見えない小さな生きもの、即ち微生物こそが疫病の原因ではないだろうかというアイデアが芽生えました。同じ頃、顕微鏡の誕生もあり、次々病原微生物が発見されましたが、「これだ！」という病原微生物が発見されるのには200年の月日がかかりました。

19世紀、結核とコレラという疫病の襲来です。このような時代を背景にドイツのロベルト・コッホ(1843~1910)が結核菌とコレラ菌を発見しました。これがきっかけとなり次々病原微生物が明らかになって来ました。コッホに次いでフランスにパスツールが登場しました。伝染病から回復した人は、その病気に再びかかっても致命的にはならないと言う事に最初に気づいたのは、紀元前の歴史家であるといわれていますが、それを「二度なし現象」として再発見したパスツールは、まずニワトリに、コレラをおこす病原微生物を無毒化して注射してみました。するとニワトリはコレラに罹りにくくなりました。また、狂犬病の病原成分についても同様に狂犬病を予防することができました。パスツールは、この予防法にワクチン療法という名前をつけました。14世紀のペストのように、17~18世紀にかけて“新たなるペスト”として天然痘が西欧で猛威を振るいました。その天然痘は17世紀ピサロというスペインの王がインカ帝国を滅ぼす道具として使った伝染病とも伝えられています。

しかしそのような中に於いても、なぜか苦しみから免れていた人達がありました。その1例が、牛痘にかかった牛と身近に接していた乳絞りの女性たちです。それに着目したエドワード・ジェンナー(1749~1823年)は乳絞りの女性の腕の膿を実の子に注射しました。何も起こらず天然痘の予防に成功したのです。この様にして、「二度なし現象」を利用した伝染病の予防法が発明されたのです。1980年WHOによって全世界天然痘根絶宣言は「ワクチンという武器を手にした人類の勝利」とさえ謳われました。しかし、人類はまたもや新たなるペスト、衣を変え変化し続けるエイズウイルスとの対決が続いています。

*スマイルボックス

水本 会長 いよいよ残り1/3、20周年に向けてラストスパート！
藤田 会員 ジョン君元気ですか！
黒川 会員 水本会長、後少しですね。
松田 会員 親しらずが抜けました。
渡邊会員・西本（明）・西本（詩）会員 コメントなし

*ロータリー財団

渡邊 会員 明日北海道です。
飛行機が飛ぶか、心配です。
藤田 会員 暖かくなりました。
黒川 会員 先週は風邪でした。
木下（健）会員 西本詩子会員、卓話楽しみです。
相原 会員・山下 会員・高尾 会員

*米山記念奨学会

山田（克）会員 西本詩子会員、卓話を楽しみにしています。
藤田 会員 3月に入りました。春間近ですね。
松田 会員 西本詩子会員、卓話をよろしく。
木下（健）会員 ジョン君 2年間ありがとう。
黒川 会員 克子さん、頑張れ！
山本（雅）・山下・相原・高尾・西本（明）各会員

*ラオス基金

藤田（芳）会員 来週はラオスです。
西本（詩）会員 無事役目が果たせますように。
黒川 会員 ラオスの土産話を楽しみにしています。
岸上・山下各会員

*メイプル基金

水島 会員 西本詩子会員、卓話よろしくお願ひいたします。
藤田（芳）会員 西本詩子会員卓話楽しみです。
山田（克）会員 相原先生、ありがとうございました。
西本（明）会員 春の嵐の様です。
高尾 会員 西本詩子会員、卓話よろしく。
西本（明）会員 本日の卓話よろしく。
西本（詩）会員 今日は卓話担当、ドキドキです。
黒川 会員 インフルエンザではありません。
岸上・山下各会員

<編集後記・追加情報・チョット一言・ライブラリー・etc>

(担当：西本 詩子)